

2026年5月12日

株式会社フジテレビジョン

新しい企業理念の策定に関するお知らせ

株式会社フジテレビジョンは、企業としての再生・改革、ステークホルダーの皆さまからの信頼回復に向けて、人権・コンプライアンスに関する意識向上および体制強化、ならびにガバナンス改革・組織改革などに取り組んでまいりました。この度、新たな企業理念を策定いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

昨年の人権・コンプライアンスに関する一連の事案により、ステークホルダーの皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。私たちは、これまでの組織風土や自らの認識の甘さによって、かつて掲げた「楽しくなければテレビじゃない」という言葉に込められた「皆さまの楽しいを追求する」という意味を、いつしか履き違えていたのかもしれないということを重く受け止め、深く反省しております。

皆さまからの信頼を回復するために、「楽しくなければテレビじゃない」から脱却し、これからのフジテレビはどうあるべきか、そして「何のためにコンテンツをお届けしていくのか」という根源的な問いと真摯（しんし）に向き合う必要がありました。具体的な理念の策定にあたっては、「楽しい」という言葉そのものから完全に離れることも含め、ゼロベースで検討を重ねてまいりました。

議論を重ねる中で最終的に残ったのは、「多くの人の心を前向きにするエネルギーとしての楽しさ」という概念です。自分たちの「楽しい」のためではなく、社会の「楽しさ」のために何ができるのか。私たちが新たに学び直したこの「楽しさ」という言葉、そして「楽しさ」の先にどんな価値をお届けできるかという問いを出発点とし、社員一人一人が自らを戒め、問い続けるための拠りどころとなる新たな「企業理念」を策定いたしました。

この理念を単なる宣言に終わらせることなく、日々の判断と行動の軸として経営と現場が一体となって推進し、具体的な変革へとつなげていくこと。それこそが、皆さまからの信頼に足る存在へと生まれ変わるための、私たちの歩むべき道であると考えております。自らを厳しく律しながら、全社を挙げて信頼回復に取り組んでまいります。

◆ 3つの指針からなる新しい企業理念

今回策定した企業理念は、1981年に対外的なキャッチフレーズとして掲げた「楽しくなければテレビじゃない」に代わるものではなく、私たちが自らに掲げる誓いです。「自分たちが提供する価値は、本当に社会のためになっているか」を絶えず確認し続けることこそが再生への道だと考え、自らを戒める問いである「Corporate Question」を起点とし、私たちの日々の行動規範となる「Corporate Policy」、社会への貢献へとつながる未来の道筋を示した「Corporate Story」へと連なる、3つの指針からなる本理念を策定いたしました。

◇Corporate Question 私たちへの問い

すべての活動の起点として、自らを戒める問いを最上位の概念として定めることで、客観的な視点を持てているか、ステークホルダーの皆さまの期待に応えられているかを、厳しく確認し続けてまいります。

その楽しさは、何のためにある？

「楽しさ」とは、多くの人の心を前向きにするエネルギーだと、私たちは考えます。

楽しさで、社会に何を届けられるか。私たちはこの問いに真摯に向き合い続けていくことを約束します。

◇Corporate Policy 私たちの行動規範

Corporate Question を私たち一人一人が毎日の行動に落とし込むための規範として、「Corporate Policy」を策定いたしました。経営トップから現場の社員に至るまで、全役職員が自らに問い続けるための言葉を定めることで、思考停止や傲慢な姿勢を防ぎ、自らを不断に律しながら、社会に貢献してまいります。

フジテレビよ。

楽しさを、はき違えるな。

楽しさに、愚直であれ。

楽しさに、驕るな。

楽しさに、必死であれ。

楽しさを、隠れ蓑にするな。

楽しさに、誠実であれ。

楽しさで、誰かを傷つけるな。

楽しさで、みんなの希望をつくれ。

ほんとうの楽しさは、難しい。

だからこそ、この仕事には、

人生をかける意味がある。

問い続ける。

自分たちが届けるコンテンツは、

関わるすべての人を、その先の社会を、

たしかに前向きにしているか。

放送を担う責任と矜持を持ちながら、

放送を超えていく覚悟はあるか。

楽しさに向き合わなければ、フジテレビじゃない。

◇Corporate Story 私たちの目指す未来

Corporate Question・Corporate Policyを通じ、また、経営戦略と連動して、私たちが目指すべき未来を「Corporate Story」として策定しました。私たちが制作するコンテンツやIPを通して楽しさを提供し、それが一人でも多くのステークホルダーの皆さまの心に届き、「好き」という感情を抱いていただくことを目指します。そしてその熱が人と人との会話、SNS等での発信を創り出し、ポジティブな熱の輪が世界に広がっていく未来に貢献してまいります。

ひとりの好きからはじまる熱を、世界中へあふれさせていく。

分断や孤独が進む世の中だからこそ、私たちは「楽しさ」を追求し続けます。

そして、その先で生まれたコンテンツやIPが、いつか誰かの「好き」につながり、その輪が広がっていくことで、ポジティブな熱がめぐる未来へと貢献していきます。

◆清水賢治（株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長）

私たちは、かつて掲げていた「楽しくなければテレビじゃない」という言葉に込められた「皆さまの楽しいを追求する」という意味をいつしか履き違え、皆さまからの信頼を損なう結果を招いてしまいました。その事実を深く反省し、フジテレビは根本から生まれ変わらなければなりません。

では、私たちはステークホルダーの皆さまに何を届けるべきなのか。それは、コンテンツに触れてくださる方の心を前向きにし、誰かの「好き」という感情を呼び起こすエネルギーである「楽しさ」だと考えております。

人が「好き」なものに触れている時間は幸せであり、その「好き」で人と人がつながることが、孤独や分断が広がる現代社会を少しでも明るくできると信じております。私たちの使命は、そのようなポジティブな熱を生み出し、社会へ届けていくことだと確信しております。

今回定めた新しい理念は、単なるスローガンではなく、私たち自身に向けた厳しい「問い」であり、決して逃げてはならない社会への「約束」です。この理念を日々の判断の軸とし、たしかに社会を前向きにする企業として、全社を挙げて歩みを進めてまいります。

以上